

編集部が迫る！



発達保障つて
なんですか？

—全障研が結成された当時のことを教えてください。

私が大学にいた当時はね、学生自治会の役員になったら、教員採用試験に合格しないという状況がありました。そういう時代が長い間続きましたね。私も、採用試験に見事に落ちたんです。無理して大学に行かせてもらったのに教師にならないというほど親不孝はない。それはつらかったですね。そんなある日、卒業した中学校を訪問したら、中学校の時に習った先生が何人かいて、採用試験に落ちた話をしました。そうしたら、体育の授業の先生がいなくて、うちに来ないかと言われてね。母校に講師で週2回雇ってもらうことになりました。

障害児教育、田中昌人さんとの出会い

その中学校と同じ郡内の中学校で4年間講師生活をしていたのですが、自分はもう正規採用にならないのかなと思っていました。でも、いろいろなツテがあつて、県の教育委員から電話がかかってきて、「滋賀県立聾話学校に空きがあるけど、そこに行かないか」というお話をいただきました。それが障害児教育との出会いです。聾話学校に入り、すぐに組合を

つくりました。そうした時に、滋賀大学を出て近江学園に行っている先輩に再会しました。彼は近江学園の職員ではなく、学園の中の分校で子どもたちを教えていました。

近江学園の子どもたちも学校教育を受ける権利がある。学園に措置された措置児というだけでなく、学齢期が来たら学校教育を受ける。学校の先生がちゃんと授業をする必要がある、ということ。1961年当時、大津市立石山中学校、南郷中学校の近江学園分校をもっていたんですね。学生時代の親しい先輩ということもあって、一度近江学園を見学しに行こうとなりました。学園に行くと田中昌人さんがおられて、いろいろとお話を聞かせてくれました。その時、「この人はすごい人だなあ」と思って。すぐれた教育理論を自前でもっている人が世の中にはいるんやな、と思いましたね。

その後は頻りに近江学園に行きました。家から車で近江学園に行くと、田中昌人さんに「いいときに来たわ。車の運転をして、野洲へ行ってくれないか」と言われました。ちょうど、びわこ学園の実践記録映画「夜明け前の子どもたち」撮

たら周りにそういったちゃんとした目で見られる人を育てないといけない。全障研の仕事は人づくり、世づくりの仕事やと思います。こうありたいなと思う世の中をつくる大きな原動力が全障研の運動の中にあります。

全障研は障害児教育や福祉の現場で広がってきました。その考え方を教育や福祉の仕事から一般社会に広げたときに社会は変わるのではないのでしょうか。そのためには一定の行動をしないとけない。人が人としてお互いを信じて平和になるような日本の国をつく

影の監修に田中昌人さんが行っていたんですね。

びわこ学園までの往復の道のりを運転して、その間ずっと聾話学校の子どもの話をしていました。それはいい勉強になりましたわ。そうこうしているうちに、全障研をつくらうかという話が出てきました。近江学園に土日も行つて、そこで出会った人が鴨井慶雄さんや藤本文朗さん。そういう関西の人たちが発達保障の勉強会をしようかと寄り集まって話合いをしていったんですね。

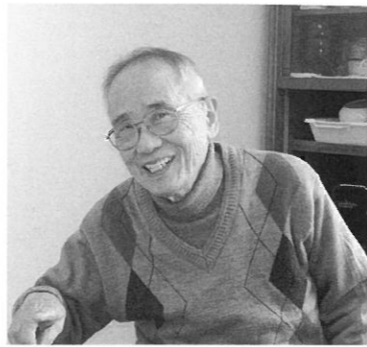
私にとってはそうして「近江学園」に出入りしていたのが事の始まりでした。そのうちに、発達保障研究会が近江学園のなかにできました。東京でも動きができて全国組織をつくらうとなつてね。

*

田中昌人さんは変わった人でした。人間って何でもできる人はいない。田中杉恵さんもそう。何で僕が田中昌人さんの運転手をするようになったかというとな、近江学園は山の上の方にあつて、坂道があつたんですね。

杉恵さんは、下り坂を下りきつたところでいったん止まらないうけないのに、止まらずにそのまま先にある川へはまってしまわれました。「何でブレーキを踏まな

渡邊 武さん その1 (全3回)



わたなべ たけし
1934年生まれ。元滋賀県立福祉会会長。滋賀県聾話学校理事。聾話学校協議会会長。家族・子ども・子育てを考える会

「あったの？」と聞くと、考えることをして踏まなあかんと思つたときには川だったとか……。似たもの夫婦でした。

やっぱり田中昌人さんのすごいのは、自分で、自分たちで全国的な研究会を組織しようとしていたところ。その最たるものが全障研の結成ではないでしょうか。

—今年の夏、全国大会が滋賀であります。

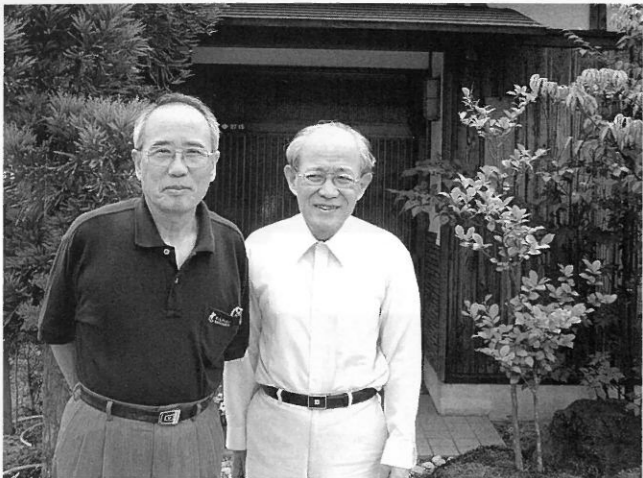
平和や平等という問題、障害のある子どもに向き合った糸賀さんが到達したレベルが「この子ら

世の光に」という言葉だった。「この子らを世の光に」という言葉の神髄をわらうとしている人が今だけにいるのかと思います。

障害の重い子こそが世の光だと思つている人は少ない。今の安倍内閣は年寄りや障害者はいないほうがいいと思つている。糸賀さんの思想と全然ちがう。この子らは世の中の邪魔やというのが今の政治。そうした政治に挑戦しないとけない。挑戦するとき、ありがたいことに、私たちは選挙権をもっている。みんなの目があったら悪いことはできない。そう思つ



全障研結成大会の開会全体会、基調報告を行う渡邊さん (1967年)



田中昌人さんと (2003年)

つながり、変えていく

もう一つ、大会をやることで、滋賀の人たちを巻き込んで、どうすれば今までとちがった状況をつくりだしていくのかということを考えることが大事だと思います。

最近の人は権力に弱い。今の権力に対して挑戦するのが楽しみという人を増やさないとダメですね。そのためには、自分たちがこういうものの考え方やこういう生き方が大事やと信念をもつてないといけない。そうするとちよつとずつ身のまわりの人間関係や地域、社会が変わってくる。全障研の果たす役割はそこにあると思う。全障研を知ってよかつたと思う人を増やしましょう。